

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2014/12 号外

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 東京大学の推薦入試◆

今回は平成28年度入試（現在の高校2年生が受験する入試）から実施される、東京大学の推薦入試についての特集です。

現在、東京大学は、前期日程で2,963人を、後期日程で100人を選抜していますが、平成28年度入試からは、後期日程を廃止して、100人程度を新たに導入する推薦入試で選抜します。推薦入試というと、学科試験が不要で、楽に入学できる入試のように感じる人もいますが、それは違います。あくまでも東大生を選抜する入試であることを忘れてはいけません。ちなみに東大の推薦入試には「学科試験」も課されます。大学入試センター試験で8割程度以上の得点をとることが、条件となります。

それにしても、東大がなぜ推薦入試を実施するのか、推薦入試で求められているのはどんな人物なのか、発表されているものをもとに考えたいと思います。

1 求める東大生像のキーワードは「グローバル」と「タフ」

「グローバル」とは
単に語学ができたり、世界について知っているというだけでなく、今まで自分が生きてきたものとは異なる生活やものの考え方、価値観などとぶつかり合い、そうした異質なものを、自分の知力・行動力・想像力の源泉として取り込んでいくこと

「タフ」とは
いかなる状況の中でも主体的に考え能動的に行動し、そうした姿勢を持続できる精神的なたくましさ

このように東大は定義しています。知的な力をぎりぎりまで鍛えて、「よりグローバルに、よりタフに」学ぼうとする、そんな学生を求めています。

東大は日本を代表する大学であり、そこでの教育は皆が注目しているものです。注目されているがゆえに影響力もあります。影響力があるからこそ、メッセージは単に東大入学希望者のためにのみ書かれたものとは思えないのです。

例えば、東大は自校のパンフレットの中で、各教科でつけてほしい力を具体的に述べています。これは、単に東大に入りたい学生のためだけのメッセージではなく、広く志ある高校生に発信しているように思えてならないのです。それが最高学府の中の頂点に位置する東大の使命であると考えていると思います。

その考え方で、「グローバル」「タフ」というキーワードを見てみると、東大生だけに求める人材ではなく、これから国内だけでなく、広く社会で活躍しようとする人全体に求められる人材像ととらえられます。

2 東大生をより伸ばすためのプログラム

東大生をより伸ばすという視点で、現在東大が取り組んでいるプログラムはいろいろありますが、その中で特徴的なものを紹介したいと思います。

①体験活動の推進

学部前期（1・2年生）、学部後期（3・4年生）の学生を対象とし、主に夏季休業期間に1週間程度、大学生活とは異なる考え方や発想、行動様式または価値観と触れあうための多様な形態・内容のプログラムを実施しています。

《国内》

- ・農業体験と漁業体験
 - ・復興まちづくりの業務体験
 - ・学芸員体験
 - ・在宅医療・介護体験プログラム
 - 《海外》
 - ・フランス中世のゴシック大聖堂の実態調査（フランス）
 - ・新興国インドでのマーケティングリサーチ（インド）
 - ・中国のトップ大学及び現地企業等の訪問、交流（中国）
 - ・ハーバード大学医学部研究室訪問及び見学（アメリカ）
- このような活動を東大が後押ししています。

②初年次長期自主活動プログラム（FLY Program）

入学した直後の学生が、自ら申請して1年間の特別休学を取得した上で、自らの選択に基づき、東大以外場で、ボランティア活動や就業体験活動、国際交流活動など、長期間にわたる社会体験活動を行い、そのことを通じて自らを成長させる、自己教育のための仕組みです。その体験活動を通して、従来の意識・価値観を相対化しつつ、大学での学びの意義・目的を自ら確認・発見出来る途を拓くことを目指している。

このプログラムに参加申請をして、採用された者には、上限額を50万円として、大学から経済的な援助も受けられます。平成25年度には、男子9名、女子2名の計11名がこのプログラムに参加し、海外を中心に活動しているとのことです。

③グローバルリーダー育成プログラム（GLP） 平成26年度から実施

国際社会で指導的役割を果たす人材（グローバルリーダー）の育成を目的とした特別プログラム。

GLPⅠ（学部1・2年）

- GLP指定科目を受講
- ・実践的外国語能力の獲得
- ・グローバル教養の涵養
- ・実践的・課題解決能力の育成

→
選抜

GLPⅡ（学部3年～）

- ・グローバルリーダー講義
- ・GLP実践研究
- ・GLPサマープログラム
- ・GLP共通授業科目

GLPⅡへの選抜基準（100名程度を選抜）

- ・グローバルリーダーとして、国際社会において先導的役割を果たしたいという強い意志
- ・高水準の英語力（TOEFL iBT 100以上 IELTS 7.0以上）
- ・指定科目の一定数以上の履修

大学で海外に少し留学したいと思う高校生は増えていますが、本当に留学等をねらうならば、高校時代からしておくべきことがあります。英語力向上は、大学に入学後では間に合わない可能性があります。留学に求められる英語力は、大学入学に必要な英語力以上のものなのです。

④4ターム制の導入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
タイプⅠ	S1	S2	休業	A1	A2	休業期間						
タイプⅡ	S1	休業期間	A1	A2	W	休業						

※タイプⅠ 法学部・文学部・経済学部・教養学部・教育学部

タイプⅡ 医学部・工学部・理学部・農学部・薬学部

※経済学部は数年後には、タイプⅡに移行予定。

※工学部・理学部は平成 27 年度は移行措置としてタイプⅠと採用。
※理学部数学科は、タイプⅠを採用。

上に示すように1年を4ターム（4つの期間）に分けて教育活動を展開します。平成27年度から、すべての学部で実施されます。週複数回授業を展開するなど、短期間でしっかりと学ぶことができる仕組みです。何よりも、休業期間に海外への短期留学がしやすかったり、ターム単位での留学が可能になったり、海外からの学生を受け入れやすくなったりと、海外を視野に入れての変更です。

3 推薦入試実施の背景

まずは、東大が公表している、「推薦入試の基本方針」をみてみましょう。そして、推薦入試を実施するねらいを3点にまとめたいと思います。

東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育のさらなる活性化を図ることに主眼をおいて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取り組みを積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視しています。

推薦入試による選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い興味を持つ志願者を求めます。東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

「自ら課題を発見し、創造的に解決できる人材を見出し、育てる」

（１）同質性から多様性へ

多様な人材を育て、グローバル社会で活躍できるようにするというのが東大のねらいですが、東大学生の実際は、

- ①男子学生が 81, 7 % 女子学生が 18, 3 %と男子学生に大きく偏っている。
(世界の名だたる大学に比べても極端に女子学生の割合が少ないそうです。)
- ②平成 25 年度学部入学生に占める 3 大都市圏 (東京圏・大阪圏・名古屋圏) 出身者の割合は、69. 2 %と、3 大都市圏出身者に大きく偏っている。
- ③平成 25 年度の学部生で留学した人の割合は 0. 6 %。海外に出る人は極端に少ない。

このまま同じタイプの人間ばかりを入学させても、東大が求める人材育成はできません。例えば留学の促進 1 つとってみても、同じタイプの人間ばかりの入学では、大幅な伸びは期待できません。留学する学生が少ないのは、学生自身の問題ばかりではなく、東大の年間スケジュールの問題や日本の就職活動の問題等もあります。ゆえに、手始めとして、前述の通り 4 ターン制にして、少しでも留学しやすいよう整えようとしています。

(2) 高校での先進的な取り組みを評価したい

現在、自ら課題を見つけて、それを解決しようとする力を育てる教育を行う高校は増えてつ
つあります。本州の進学校でもそういうスタイルを取り入れている高校は少なくありません。
そういう取り組みをしている人こそが次世代を切り開く学生であり、そういうことに意欲的
な学生を入学させたいというねらいがあるようです。

ここからは私見ですが、前述の通り、注目度の高い大学ですし、東大の動向をみて、入試制度を真似する大学も多いことから、こういう力を積極的に大学が評価すべきと発信しているように見えますし、高校でも（東大志望者がいようといまいと）、そういう力を育成していくべきと発信しているように思うのですが如何でしょうか。

(3) 自ら課題を解決しようとする人間を本気で育てたい

はっきり東大が公表しているように、こういう人を「丁寧に探し、評価したい」と考えているようです。大学入学後の伸びが期待できる人物を真剣に探そうとしているのです。大学入学後、ひいては、社会に出て伸びる人材は、このような人だと東大は考えているようです。

4 推薦で入学してほしい学生

東大の公表しているものを見てみましょう。

- ・ 誰にも負けないくらいの興味や関心をもっている分野があり、大学ではほとんどそのことについて勉強したい、という強い意欲のある学生。
- ・ 与えられた課題をこなすだけでなく、自分で問題を設定し、1つではない答えを求め続けることができる、学問に対して能動的な意識がある学生。
- ・ 日本国内のみにとどまらず、世界に目を向けることができ、将来活躍したいという広い視野と積極性をもつ学生。

5 推薦要件・入試スケジュール

推薦を受けられる要件

出願資格
原則として日本国内の高等学校等を卒業予定もしくは卒業した方が対象です。推薦要件をみたす者が学校長から推薦を受け、出願することができます。

1校から推薦できる人数は男女各1人、合計2人までです。
(男女いずれかのみしか在籍しない学校においては1人となります)。既卒生も対象となります。

推薦要件
学部ごとに推薦要件が異なります。推薦要件を具体的に証明する書類とは、例えば以下のようなものです。

課外活動の生きたる実証的な学習の成果
コンテスト賞状など

**科学オリンピックなど
志望分野にかかわる各種コンテストの成績**

語学力の証明書
TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSK など

**留学を証明する資料、
国際通用性のある入学資格試験の成績**
国際バカロレア、SAT など

その他に、社会貢献、芸術・文化・スポーツなどでの特筆すべき意欲的な活動など

推薦入試の流れ

■ 合格判定は出願書類の内容、面接時の場合適宜、および入学試験センター試験の成績を総合的に評価して行います。

■ 大学入試センター試験は、入学後の学習内容に付いた基礎知識を測っている点と大学で判断する観点から、優劣が異なる点があります。合格判定とします。入学試験センターの合格判定です。

■ 推薦入試と本学の前期入試試験の併願も可能です。併願する場合は併願書が必要です。



学部ごとの推薦要件の例③

←工学部の推薦要件。各学部ともホームページで公表しています。

★推薦で入学した学生には、専門分野の教員からきめ細かな指導やアドバイスを受けられる環境も提供されるそうです。

東大に限らず、
大学で伸びる学生
像をイメージする
ために今回の通信
を使ってくれば
うれしいです。